

ウィズあい 大垣



学びあい、教えあい、支えあい、助けあいみんなで一緒に男女共同参画社会づくりを進めましょう

2026 年（令和 8 年 1 月）第 30 号

世界経済フォーラムが 2025 年 6 月に発表した日本のジェンダーギャップ指数は、148 か国中、昨年度と同順位の 118 位でした。これは、各国の男女格差を「経済」「教育」「健康」「政治」の 4 分野で評価し、国ごとのジェンダー平等の達成度を指数にしていますが、日本は先進国の中でも大きな課題を抱えています。

特に、政治分野や企業の管理職における女性の参画が不十分な状況が続いていますが、昨年初めて女性内閣総理大臣が誕生しました。

大きな転換点を迎えたいま、もう一度、わたしたちが目指すべき男女共同参画社会について考えてみましょう。

男女共同参画週間 パネル展示

内閣府の「男女共同参画週間」（期間：毎年 6 月 23 日～29 日）に合わせ、男女共同参画社会について広く理解を深めるため、パネル展示を、ハートリンクおおがき及び南部サービスセンターオープンスペースで行いました。

男女共同参画にまつわる数字に着目して、日本の現状や男女共同参画センターの取り組みなどについて展示しました。



展示したパネルの一部を紹介します！／

30.1%

厚生労働省の調査によると、令和 5 年度の育児休業取得率は、女性 84.1%、男性 30.1%でした。

育児休業が取得しやすくなるよう法律が改正され、男性も育児をするという環境を企業も支援していく社会情勢が形成されつつあり、取得率は上昇傾向にあります。

しかし、育児休業の取得期間は、女性は 9 割以上が 6 か月以上である一方、男性は徐々に取得期間が伸びているものの、約 4 割が 2 週間未満であり、依然として女性に比べて短期間の取得が多いのが現状です。



12.7%

男女の雇用均等問題に関する雇用管理の実態を把握することを目的に厚生労働省が毎年実施している調査によると、企業規模が 10 人以上の企業における、

令和 5 年度 女性管理職（役員を含む課長相当職以上）の割合は、12.7%でした。

女性の活躍を促すことで、社会全体が活性化するとともに「男性の家庭進出」を進めることができます。

さらに、女性が管理職として活躍することで、より多様な視点を取り入れた組織運営や、女性が安心して働ける環境作りにつながり、企業の成長や競争力向上にもつながります。



32.3%

2022 年 4 月 19 日に、内閣府男女共同参画局が作成した「令和 3 年度 男性の家事・育児参画状況実態調査報告書」によると、配偶者との家事分担の割合は、女性 70.6%、男性 32.3%と、男性の負担は女性の半分以上に過ぎません。

男女共同参画社会を実現するには、より積極的な男性の家事参加が必要不可欠です。

夫婦と子供から成る世帯（有業者（仕事のある日））	令和 2（2020）年度調査	令和 3（2021）年度調査	時間の増減
仕事時間	女性 8時間42分 男性 9時間09分	7時間18分 9時間34分	-36分 -25分
家事時間	女性 2時間29分 男性 0時間50分	2時間31分 0時間49分	-2分 +1分
育児時間	女性 2時間13分 男性 0時間55分	1時間43分 0時間31分	+30分 +24分
介護時間	女性 0時間49分 男性 0時間41分	1時間02分 1時間06分	-13分 -25分

出典：内閣府 男女共同参画局「令和 3 年度 男性の家事・育児参画状況実態調査報告書」より

令和 7 年度 男女共同参画フォーラム 分科会を開催しました！

第 1 分科会

女性の視点を活かした自治会活動とは ～暮らしやすい地域づくりのために～

と き: 令和 7 年 11 月 29 日(土) 13:30 ～ 15:15
参 加 者: 54 名
企画運営: 高齢社会をよくなる女性の会岐阜・大垣支部

岐阜市 50 地域の自治会連合会初の女性会長として活動されている岐阜市本荘自治会連合自治会長の井上 いほりさんを講師に迎え、「共に創るみんなの自治会活動」の在り方や、女性が積極的に参画できる仕組みづくりなどを学び、参加者自らが「地域の一員としてできる協力」について考えた。

【内容】

未だ女性の参画が少ない自治会活動の中で、井上さんは約 20 年間の活動を通して女性ならではのコミュニケーション能力や日頃からのつながり、独自の視点や発想を育ててきた。

当初は、「女に何ができる」と言われ、否定的な人もいたが、地域をよくしたいという信念のもと会長を続けた。「人と人のつながりの希薄化」という課題に対し、地元の喫茶店などを利用した「地域サロン」や、身元確認のための「救急カード」の配布を行うなど、住民の誰も独りにさせない自治会づくりを工夫して行った。

男だから・女だからではなく、男だからこそ・女だからこそ、考える幅が広がり、多くのことに気づくことができるため、女性の積極的な自治会参加は大切であると語られた。

【感想・参加者の意見】

女性が自治会活動に積極的に参画するためには、男性が女性の意見や気づきなどを受け入れる姿勢を持つことも大切である。また、女性ならではのライフイベントやそれぞれのワーク・ライフ・バランスもあるため、対面のほかに web 会議の活用など、お互いの負担にならない形式で、積極的な参画を促したい。



第 2 分科会

知ろう・解かろう・認め合おう

と き: 令和 7 年 12 月 6 日(土) 13:30 ～ 16:00
参 加 者: 45 名
企画運営: OILC(大垣国際女性サークル)

元インターナショナルスクール教員の田中 友季子さんをメインスピーカーに招き、約 30 年間のオランダの暮らしから見た男女共同参画の意識についてお話を伺った。さらに、ミニシンポジウムでは、モンゴル、ミャンマーの女性の生き方や日本との違いについてお話を伺った。

男女共同参画についての視野を海外へ広げ、誰もが持てる力を発揮できるようみんなで考えた。

【内容】

オランダの女性の就労率は約 75%で、パートタイマーが多いものの、状況に合わせて働き方を変えることができるため、仕事と家庭の両立がしやすい環境である。男女ともに育児休暇があるのはもちろん、育児中の女性には勤務時間内に勤務時間の 4 分の 1 の搾乳時間をもらえる権利があるなど育児の支援が充実している。また、父親の育児参加が制度的に強く推奨されているだけでなく、仕事よりも生活・家庭中心の働き方が社会的に受け入れられている。そのため、男女ともに働きすぎず、必然的に家庭で過ごす時間が長くなり、男性の家事・育児参加も増えていると考えられる。

課題として、女性がライフスタイルによって自由に働き方を変えることができる一方、パートタイマーが多いため経済的自立が弱い点や、女性管理職の伸び悩みが見られる。さらに、まだまだ家事・育児参加時間の男女間の不均衡、性別役割分担意識が残っているという点がある。

【感想・参加者の意見】

オランダやモンゴルは男女共同参画が進んでいると感じた。日本もようやく、女性が活躍できる場が広がってきている。早くから女性自身が力をつけていくことが必要であり、個性を活かしてできることをしっかりと始めていくことがジェンダー平等につながると思う。



令和7年度 大垣市男女共同参画フォーラムのテーマは、「あなたがまちを変える ～魅力ある地域づくりのために～」です。男女が互いに尊重し、責任をわかち合い、いきいきと活躍することができる男女共同参画社会の実現に向けて考えましょう。

男女共同参画フォーラム全体会の開催に先立ち、4つの分科会を開催しました。

第3分科会

その時、どうする?! part2

～避難所内の生活環境について考える～

と き:令和7年12月13日(土) 13:30 ～ 15:40

参 加 者:34名

企画運営:大垣人権擁護委員協議会(大垣市)

東日本大震災など3度の震災を経験された防災士の小笠原 勉さん・恵知子さんを講師に迎え、災害発生時の様子や避難所での体験についてお聴きし、避難所で起こりうる様々な問題や人権トラブル、日頃の防災への備えについて考えた。

また、避難所で実際に使われる段ボールベッドや簡易トイレ等を、参加者同士協力し、組み立てる体験をした。



【内容】

被災直後、停電で地震の状況などは分からず、情報も何も届かなかった。そのため、災害直後は自己判断での避難が最も重要であると思う。

避難所においては、共同生活によるストレス、プライバシーの侵害、低温、食料不足、医療品の欠乏、少ないトイレ、衛生面の不安など長引けば長引くほど、様々な問題が噴出してきた。停電の影響や、物流停滞、ライフラインの被害、大量のごみの発生などあらゆることが困難に陥った。

岐阜県は大きな地震を経験したことのある人が少なく、家庭での対策が十分にできていないと感ずるため、被災者の実体験を聞き、日頃から災害を自分事として考え、備えることが大切である。

【感想・参加者の意見】

災害時の避難所運営等における女性視点の必要性について考えた昨年度の分科会に引き続き、避難所の様子を写真を見たり、実際に使う道具を組み立てたりすることで、避難所内の生活環境についてより身近に感じることができた。避難所での男女のニーズの違いなどを理解し、防災訓練などに男女ともに積極的に参加し、話し合い等で備えておくことが大切だと思った。

第4分科会

「走り出すチカラ」

～地域で挑戦を続ける女性たちのリアル～

と き:令和7年12月20日(土) 14:00 ～ 16:00

参 加 者:23名

企画運営:大垣夢ある女性の会

地域に根ざしながら、それぞれの分野で挑戦を続ける(株)田口鉄工所代表取締役の田口 薫さん、(株)リリフル代表取締役の金森 律子さん、整理収納アドバイザーの高桐 久恵さん、岐阜協立大学2年生の小寺 優菜さんを登壇者としてお招きし、仕事・家庭・地域活動など多様なフィールドでの経験や想いを語った。

大垣で活躍する女性たちのリアルに触れ、次世代の女性たちが一歩を踏み出すきっかけとなる対談となった。



【内容】

女性が地域で挑戦するときに課題となりうることは多くあるが、例えば、男性ばかりの中に入ってしまったとき、女性は少ないから逆にすぐに顔を覚えてもらえるなどとプラスに考えを変えていくことも必要であり、実際にプラスになることもあった。また、家族の戸惑いや、妊娠・出産、家事・育児、乗り越えなければならぬことは多々あるが、その時に、今大切にしたいものと考え選択していくことが大切である。決定権のある立場につく女性が増えてきた今、チャンスがたくさんある。本当にやりたいことを見つめ、これからもステップアップし続けていきたい。

【感想・参加者の意見】

登壇者の方々は、挑戦を楽しみ、成長してきた経験や地域とのつながりを力に変えている。従来考えられてきた働き方だけではなく、女性にとっての働き方・生き方の選択肢が広がる中、「自分の選択を肯定し、行動し続けることの大切さ」を実感することができた。

男性の家事応援講座

家庭の調理器具を使ってできる 「手打ちそば」



男性の家事参加を促進するため、男性の家事応援講座を開催しました。

好評の声をいただき、今年度も家庭にあるボウルやサラップの芯などを使ってできるそば打ちを体験しました。パートナーやお子さんと協力している姿が多く見られ、楽しい講座となりました。

ご都合が合わず、参加できなかった方のために、上石津町「時そばの会」さんにご協力いただき、手打ちそばの作り方を動画にまとめました。大垣市公式 YouTube にて公開していますので、ぜひご覧ください。

【ご視聴はこちら→】



女性に対する暴力を なくす運動

毎年11月12日～25日は、「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

この期間に合わせて、市では様々な啓発活動を実施しました。

暴力は、その性別や加害者、被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありません。

特に、女性に対する夫やパートナーからの暴力(DV)、性犯罪、ストーカー行為、セクシュアル・ハラスメントなどは、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。



【街頭啓発】



【啓発展示】



【大垣城ライトアップ】

～ 相談窓口のご案内 ～

ひとりで悩まず、困ったことがあればお気軽に相談窓口へご相談ください。

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| ○ DV相談ナビ 短縮ダイヤル（最寄りの相談窓口につながります） | ☎ #8008（はれれば） |
| ○ DV相談プラス（24時間対応） | ☎ 0120-279-889 |
| ○ 女性相談【社会福祉課】月～金 9:00～16:00（祝日を除く） | ☎ 81-4111（内線2470） |
| ○ 女性の悩み相談【ハートリンクおおがき】水・金・土 9:00～16:00 | ☎ 47-7188 |
| ○ DV相談プラス（メール、チャット相談） | 右記二次元コード |



大垣市男女共同参画に関するメール配信サービス

男女共同参画センター「ハートリンクおおがき」等で実施する男女共同参画に関する講座やイベントなどの情報を配信しています。ぜひご登録ください。



◆編集・発行 大垣市市民活動部 男女共同参画推進室

電話：0584-47-8549

Eメール：danjo@city.ogaki.lg.jp

—法務省 人権啓発キャッチコピー— 「誰か」のこと じゃない。